

肉用牛・食肉政策の現状と課題の整理

目次

大項目		中項目	小項目	P	
1	需給動向	産業の概況	肉用牛生産の位置づけ・主産地	4	
			供給構造	5	
		供給	供給動向	6	
			品種別の生産動向	7	
			和牛肉の生産量及び肉質の動向	8	
		需要	消費動向 (一人あたり消費量、消費構成)	9	
			輸出動向	11	
			国内及び海外市場の変化	12	
		輸入	日本の輸入動向	13	
			世界の輸入動向	14	
		価格	牛枝肉卸売価格	15	
			肉用子牛価格	16	
			と畜頭数と枝肉価格の関係 (和牛)	17	
		当面の需給見通し(和牛)			18
		論点① 需給の変化への対応			19

大項目		中項目	小項目	P
2	生産基盤	子牛の生産体制		21
		繁殖経営	繁殖雌牛の動向	22
		酪農経営	肉用子牛の生産動向	23
			ET和子牛の生産動向	24
			肉用子牛の収益性	25
		繁殖経営と酪農経営の関係		26
		課題と対応	繁殖雌牛(高齢牛由来の子牛価格)	27
			遺伝的多様性	29
		論点② 繁殖・改良基盤の充実強化		31
		3	経営動向	概況
繁殖経営の規模別・後継者の動向	34			
後継者対策の取組例	35			
生産コスト	動向(繁殖経営、肥育経営、費目別)			38
	生産コスト等への対応(スマート農業、 早期出荷、放牧等、国産稲わら)			42
論点③ 経営の体質強化、担い手不足への対応				43

目次

大項目		中項目	小項目	P
4	消費者ニーズ	消費者ニーズと品種毎の位置づけ		45
		脂肪交雑の状況		46
		「おいしさ」の要素		47
		おいしさに関連する改良形質の取組状況		48
		早期出荷牛肉に対する理解醸成の推進		49
		消費者ニーズへの対応イメージ		50
		論点④ 多様な消費者ニーズへの対応		51
5	輸出促進	輸出拡大実行戦略		53
		解禁協議等の国別対応状況		54
		主要な輸出認定施設		55
		部位別の輸出動向		56
		輸出の効果		58
		論点⑤ 世界の牛肉マーケットへの対応		59

大項目		中項目	小項目	P
6	流通	食肉処理施設	現状及び課題	61
			流通構造の変化	62
			整備事業	63
			施設整備のための 中長期ビジョン	64
		家畜市場	現状及び課題	65
			再編の具体事例	66
		論点⑥ 流通体制の強化		67

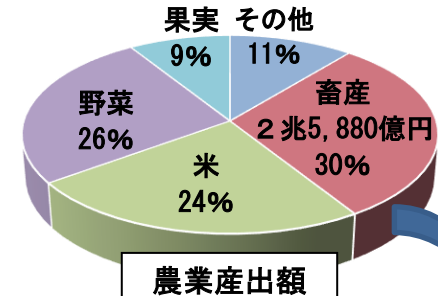
【1. 牛肉の需給動向】

肉用牛生産の位置付け・主産地

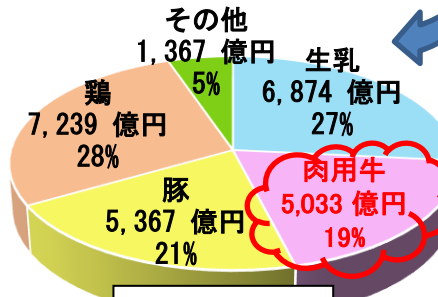
- 我が国の畜産の産出額は、農業産出額の約39%を占め、そのうち肉用牛は8,257億円で24%を占める。
- 都道府県別の産出額では、北海道と九州が大きく、鹿児島県と北海道は1,000億円超。

肉用牛産出額

平成24年

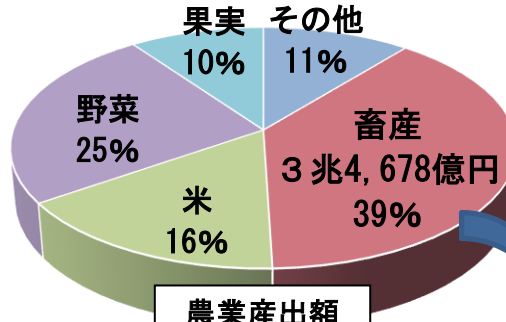


農業産出額
8兆5,251億円

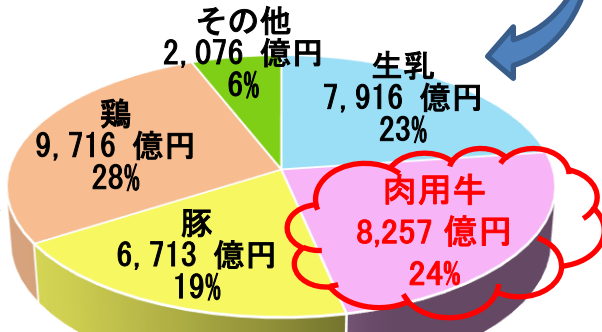


畜産の産出額
2兆5,880億円

令和4年



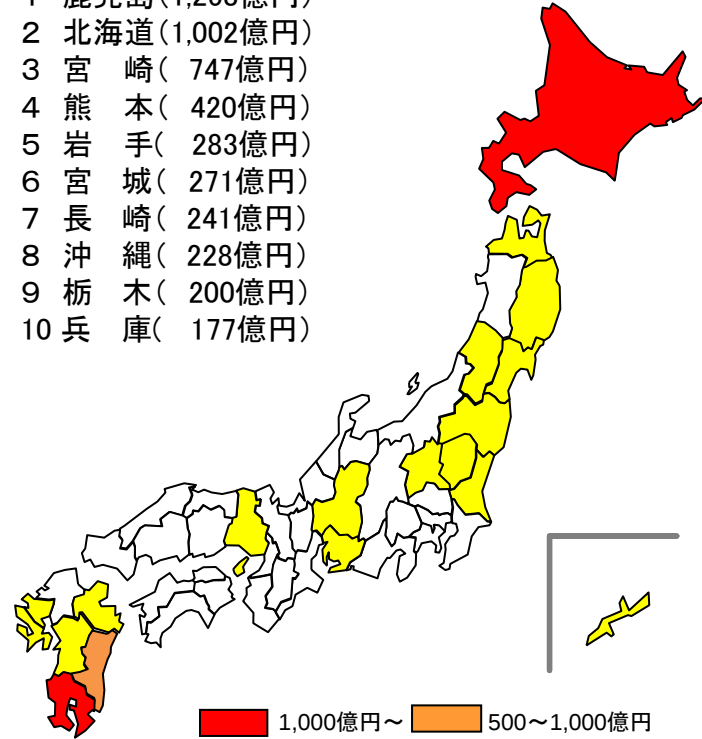
農業産出額
9兆0,015億円



畜産の産出額
3兆4,678億円

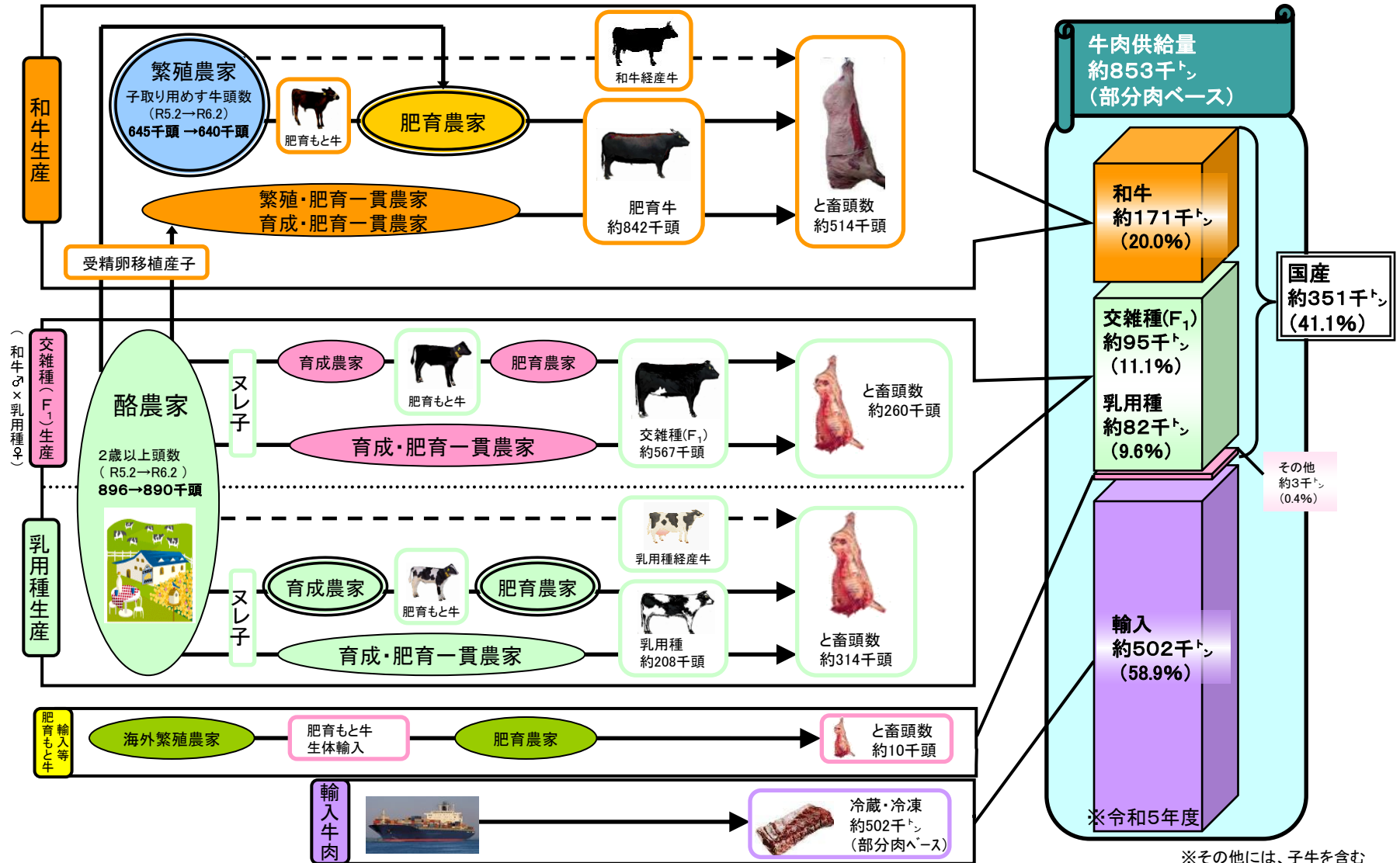
都道府県別の肉用牛産出額 (令和4年)

- 1 鹿児島(1,258億円)
- 2 北海道(1,002億円)
- 3 宮崎(747億円)
- 4 熊本(420億円)
- 5 岩手(283億円)
- 6 宮城(271億円)
- 7 長崎(241億円)
- 8 沖縄(228億円)
- 9 栃木(200億円)
- 10 兵庫(177億円)



1,000億円～ 500～1,000億円
100～ 500億円 ～ 100億円

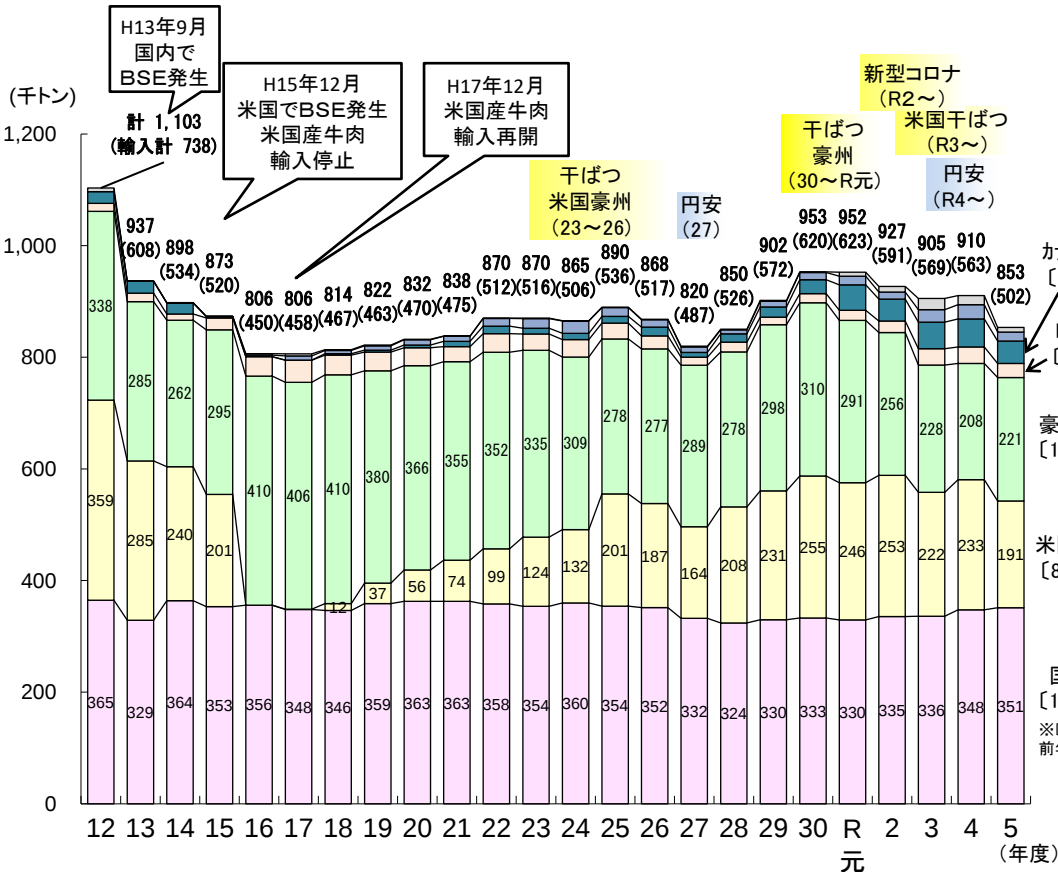
供給構造



牛肉の供給動向

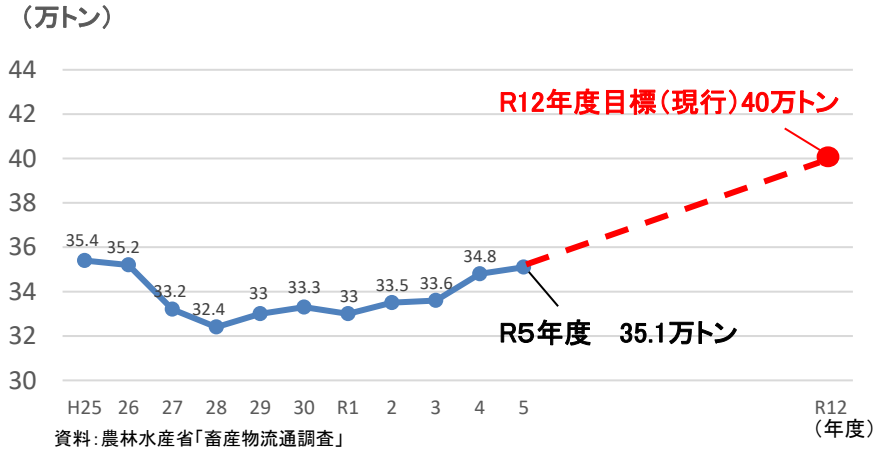
- 牛肉の供給量は、令和2年度以降、円安等の影響により輸入量が減少した結果、令和5年度は85万吨。
- 牛肉の生産量は緩やかな増加傾向にあり、令和5年度は35万吨。現行酪肉近における生産量目標は令和12年度40万吨。
- 牛肉の自給率(重量ベース)は長期的に減少傾向。令和5年度は、輸入が減少し、生産が増加したことから、前年度より1ポイント上昇し40%。

牛肉供給(部分肉ベース)の推移

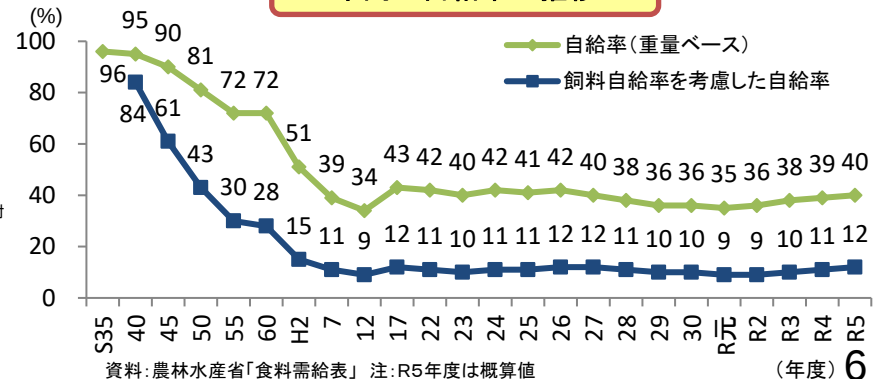


資料: 農林水産省「畜産物流通調査」「食料需給表」、財務省「貿易統計」、ALIC「食肉の保管状況調査」

国内牛肉生産量(部分肉ベース)の推移と現行酪肉近の目標



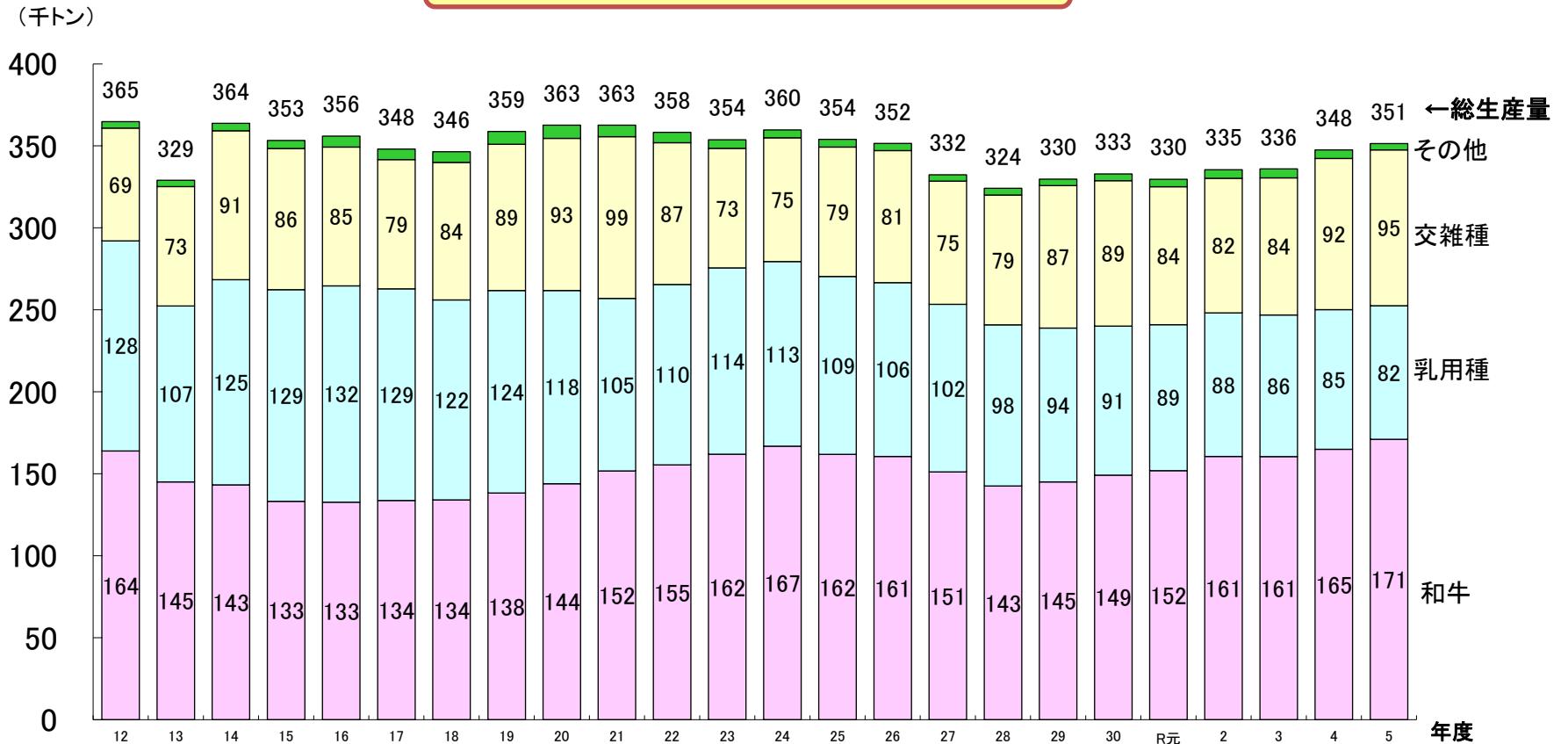
牛肉の自給率の推移



品種別の生産動向

- 国内生産量は、畜産クラスター事業の取組等により、平成29年度からは増加傾向で推移。品種別の生産量では、乳用種は減少傾向で推移しているが、和牛・交雑種は増加傾向で推移しており、令和5年度は、全体では35.1万トン。
- 和牛が約17.1万トン（約49%）、交雑種が約9.5万トン（約27%）、乳用種が約8.2万トン（約24%）。

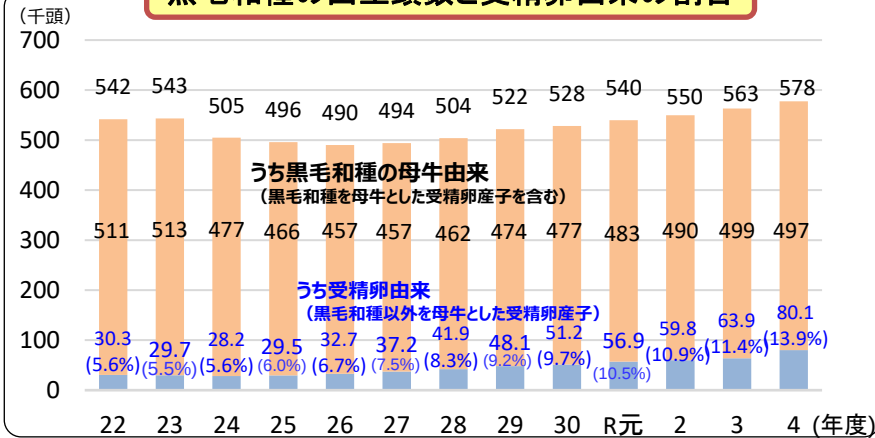
品種別牛肉生産量(部分肉ベース)の推移



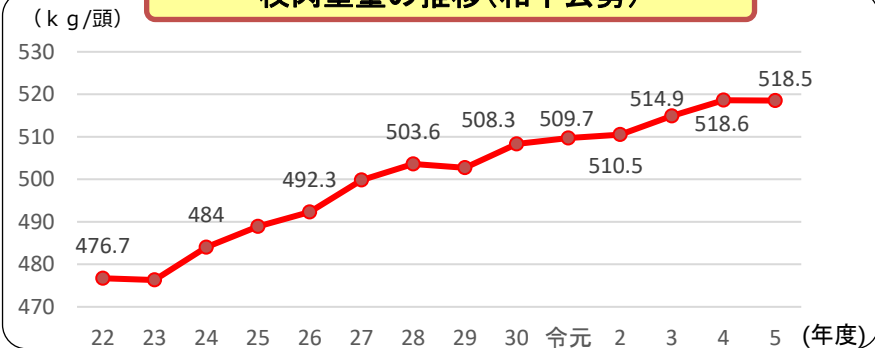
和牛肉の生産量及び肉質の動向

- 近年の黒毛和種の出生頭数は、**黒毛和種の母牛由来、受精卵由来とも、増加傾向**で推移。
- 家畜改良や飼養技術の向上により、枝肉重量も増加傾向。
- その結果、平成29年度以降、**和牛肉の生産量は増加傾向**で推移。なお、**A5の格付割合も大きく増加**。

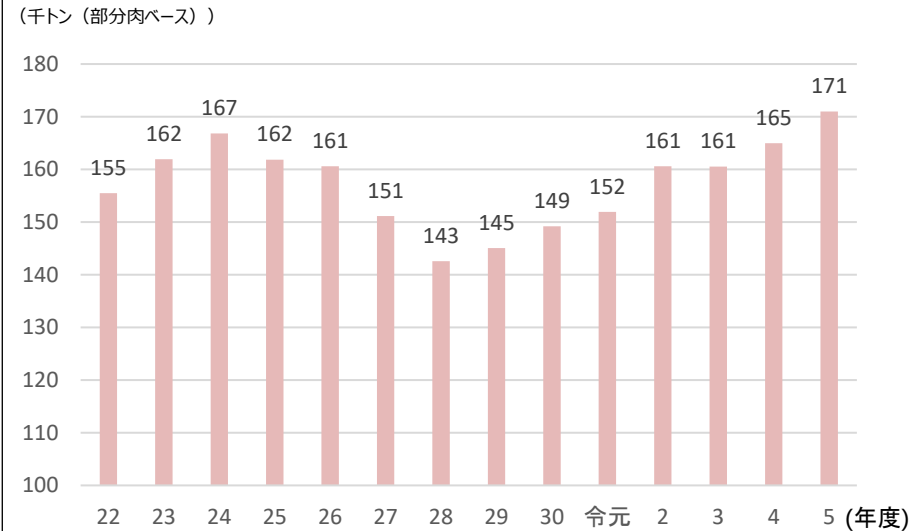
黒毛和種の出生頭数と受精卵由来の割合



枝肉重量の推移(和牛去勢)



和牛肉の生産量



和牛去勢格付率 (平成24年度)

A5 20.1%
A4 38.4%
A3 24.7%

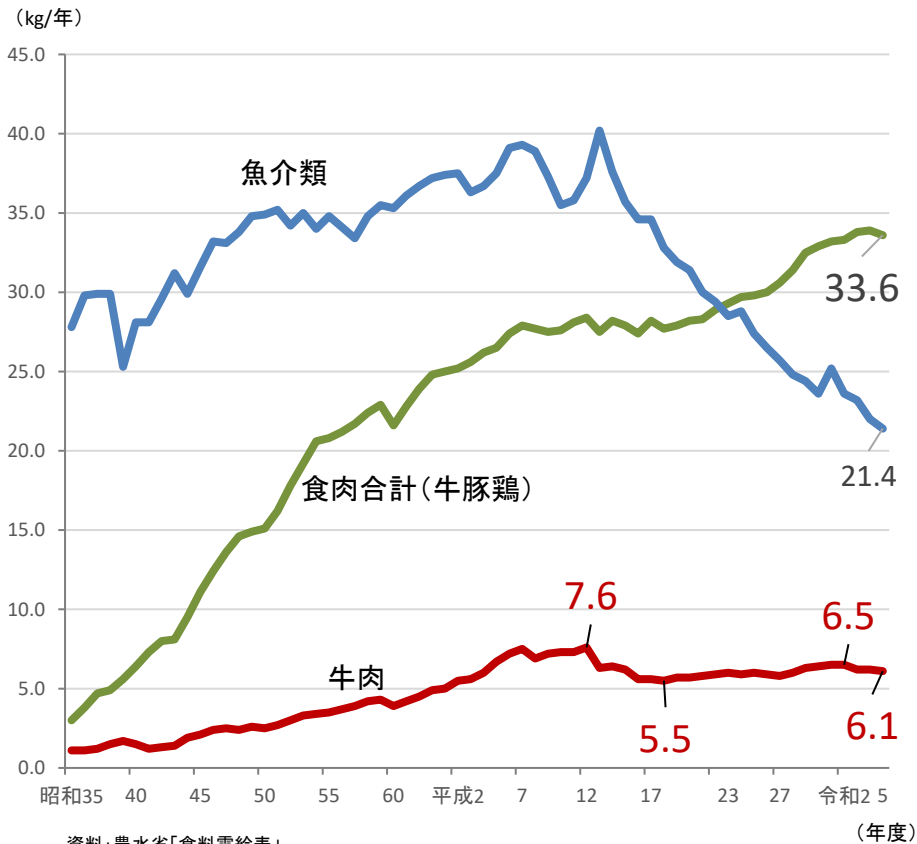
(令和5年度)

A5 63.6%
A4 25.8%
A3 6.4%

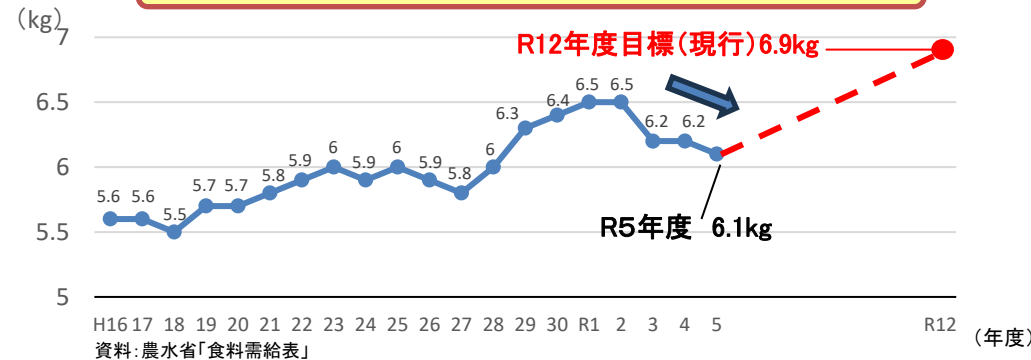
消費動向(一人あたり消費量)

- 食肉全体の一人あたり消費量は、食文化の西洋化や魚介類の消費の減少等に伴い、**増加傾向で推移**。
- 牛肉の一人あたり消費量は緩やかな増加傾向にあるが、令和3年度以降、新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響等により減少し、令和5年度は6.1kg/年。現行酪肉近の目標は令和12年度6.9kg/年。
- 人口は、平成20～令和5年の15年間で3%減少。更に、令和5～令和12年の7年間で3%減少する見込み。

肉類及び魚介類 一人あたり消費量の推移



牛肉の一人あたり消費量の推移と現行酪肉近の目標



人口の推移

